

祝 令和7年 20歳のつどい

未来への希望を胸に

1月12日、令和7年20歳のつどいが行われました。

今年、愛荘町では267人が20歳の節目を迎え、当日は178人が20歳のつどいに参加しました。

1月12日、20歳のつどいをハーティーセンター秦荘で行いました。色とりどりの振袖や真新しいスーツ姿の皆さんは、久しぶりに会う友人との会話を楽しんだり、家族と写真撮影をしたりして、会場はたくさんの笑顔に満ちあふれていました。

式典第1部は、20歳のつどい実行委員の村川 澄怜さんの演奏のもと国家斉唱を行い、同じく実行委員の森野 太晴さんと小林 優斗さんのお二人が20歳の抱負を述べました。

式典第2部では、小学校・中学校の恩師からのビデオレターが流れ、観客席からたくさんの歓声や笑い声が響き、会場は懐かしい雰囲気になりました。

また、皆さんの成長した姿をあたたく見守る保護者の姿もあり、見守る人たちにとっても特別な一日となりました。

皆さんは、この日の思い出と未来への希望を胸に、ここから新たに大きな一歩を踏み出します。



20歳の抱負 森野 太晴さん

20歳という節目の歳を、この町で、この同級生たちと迎えることができ、大変光栄に思います。これまでと違い、20歳になるということは、社会の一員としてより一層自覚と責任を求められます。自分の行動や言動が周囲に与える影響を考慮し、立派な大人としての行動を心がけていきたいです。

そして、ここまで元気に成長することができたのは、家族や地域の方々、自分に関わってくださった全ての方の支えがあったからです。これからは感謝の気持ちを胸に、自分も誰かを支えられる存在になれるように努力していきたいです。

成人としての道はまだまだ始まったばかりで、失敗を経験することもあると思います。その失敗を恐れずに挑戦を重ねて成長していけるような人間になりたいです。

また、今日を新たなスタートとして 不透明な未来に向かい日々着実に歩んでいきたいと思っています。



20歳の抱負 小林 優斗さん

20歳を迎えるにあたり、これまで支えてくださった全ての方々に感謝するとともに、私たちが大人として新たな責任と使命を負うことを自覚する一つの節目であると感じています。一言に「大人」と言っても様々な捉え方ができますが、私がなりたいたい「大人」とは、ただ年齢を重ねることではなく、人生の様々な問題に「向き合う」ことができる存在です。

私は大学で環境問題や都市づくりに関する勉強をしていますが、その中でも自分が社会の一員としてできることは何かということを考えさせられます。地球温暖化や資源問題など、毎日のようにメディアで耳にしますが、これまでは漠然と何とかなるものだと考えていました。しかし大学での学びを経て、社会では必死にそれらの問題に向き合っている大人がいて、そのおかげで私たちの生活があることを知りました。

私は現在、環境学についての知見を深めるため、海外への留学を計画しています。将来はそこの学びを活かせる仕事に就き、目の前の問題に対して自分ごととして向き合い、行動を起こせる大人になりたいです。こうして今日の日を迎えることができたのも、これまで私たちと向き合い続けてくれた、家族や先生方、地域の皆様がいたからです。今はまだ名ばかりの大人ですが、これから経験する出来事一つひとつに正面から向き合い、私の考える立派な「大人」に成長していきたいです。

